

笑顔が平和を作り出す

読谷中学校三年 金城 若葉

平和って何だろう。私にとって平和なとき

それは、家族とその日の出来事を話し合っ

笑いがこぼれる時間、学校で友達と勉強に取

り組み学び合う時間、皆でご飯を食べるひと

ときを思い浮かべます。

ある日私は、エニセフ募金を願うパンフレ

ットを目にしました。そこには、紛争の続く

中にいる子供たちの思いがこぼれたいま

た。

生きていたい。僕の夢はそれだけです。

っ 出かけても無事帰ってこられる日々がそ

っ 一度来てほしいです。

その言葉が胸にささりました。私はこの子供

たちが望む平和な時間を生きています。

し、今生きている一日一日を平和だと感じる

ことは出来ているだろうか。紛争の中、必死

に生きる子供たちとは比べものにならない平

和な毎目を、大切に過ごせているだろうか。

曾祖母のあの月の声が、私の中でこたえを	楽しい日々を失ってほしくなはい上	てはいけなはいうことを。今ある笑顔	忘れなはいでほしい、戦争を二度と繰り返	の悲惨さを物語っていました。	明るく笑う曾祖母の寂しそうな表情が、戦争	たとき、頬を涙がたっついていました。いつも	をせくしたと聞きましした。この話をしてくれ	を抱いて働いたそうです。でも大事な我が子	ました。戦争が終わると、妹達と自分の子供	自分の子供をかかえた曾祖母は、必死に逃げ	か。た両親が七くなり、四人兄弟の年上で、	います。戦時中の厳しい生活で、伝染病にか	私の曾祖母は二十歳のとき沖縄戦を体験して	感謝することは大事だよ。	今、生きている、笑顔で過ごせることに、	のぼった曾祖母の話を読み出しましした。	パンフレットを見ていて、ふと今は天国に	てしまいます。	自分に問はつめてみると、私は答えにつま
---------------------	------------------	-------------------	---------------------	----------------	----------------------	-----------------------	-----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	--------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------	---------------------

した。

戦争を実際に体験した方々のお話を聞いて

私は「戦争は人の笑顔を命を、一瞬にして失

なつてしまふ。だから平和な世の中を作り続

けていきたい」と強く思いました。今度は

私達が次の世代へ平和の願いを伝えていく番

です。

私達は戦争を知りません。七十二年前、毎

日のように銃弾がとびかき、逃げまどい尊い

命を落としたり景色を想像すると、怖くてたま

りません。現在、戦争を体験した方々はほん

のわずかです。だからこそ曾祖母の涙が語

た悲しみを知ら私は、平和を学び、伝えてい

こうと思いました。

そして戦争の悲惨さを伝える物を大事にし

ていくこと、平和を作り続けることに繋が

るのではないでしょう。集団自決が起こり

多くの命を落とした千ど千りがまた、次の世

代に大切に残し伝えていくことで、物から人

へ平和へのバトンを繋ぐことも出来ると思

